

天皇陛下御即位二十年奉祝委員会 各界代表500名集め設立総会開く



写真は各界代表500名が参加して開催された天皇陛下御即位二十年奉祝委員会設立総会(6月5日、都内グランドプリンスホテル赤坂)

国民各界各層に呼びかけ 奉祝事業がいよいよ開始



写真は、上左より町村信孝内閣官房長官、平沼起夫議連会長、伊吹文明自民党幹事長、鳩山由紀夫民主党幹事長、島村宜伸奉祝議連世話人、中村利雄日商専務理事、下左より、山口信夫日商名誉会長、浅野温子さん、川淵三郎サッカー協会会長、長島忠美旧山古志村村長、矢田部正巳神社本庁総長、宮田勇全農中央会会長、小田與之彦日本青年会議所会頭の皆さん。

これより、全国において二ヶ年に行われる奉祝運動が本格的にスタートすることとなりました。

最後に、奉祝委員会代表世話人の矢田部正巳神社本庁総長の先導により聖寿万歳が行われ、全国農業協同組合中央会の宮田勇会長から閉会の辞が述べられて設立総会は盛会裡に終了しました。

各界からは、日本商工会議所の山口信夫名誉会長、日本サッカー協会の川淵三郎会長、女優の浅野温子さん、長島忠美旧山古志村村長から心のもった祝辞が述べられました。

奉祝委員会会長に就任した日本商工会議所の岡村正会頭より会長式辞が述べられ(中村利雄専務理事が代読)、続いて来賓より政府を代表して町村信孝内閣官房長官、各党から伊吹文明自民党幹事長、鳩山由紀夫民主党幹事長、奉祝議員連盟世話人会を代表して島村宜伸議員からそれぞれ祝辞が述べられました。

奉祝委員会会長に就任した日本商工会議所の岡村正会頭より会長式辞が述べられ(中村利雄専務理事が代読)、続いて来賓より政府を代表して町村信孝内閣官房長官、各党から伊吹文明自民党幹事長、鳩山由紀夫民主党幹事長、奉祝議員連盟世話人会を代表して島村宜伸議員からそれぞれ祝辞が述べられました。

六月五日、都内ホテルに政府代表 各党代表らの来賓を始め、各界から就任した奉祝委員会の役員など、全国各地から五百名が参集して、天皇陛下御即位二十年奉祝委員会の設立総会が盛大に開催されました。

総会は、代表世話人で日本青年会議所会頭の平沼起夫の司会で進行、平沼起夫日本会議国会議員懇談会会長より開会の挨拶、男成洋三奉祝委員会事務総長より役員案と五つの奉祝事業案が発表され、満堂の拍手をもって承認されました。

名誉会長に御手洗富士夫、日本経団連会長、会長に岡村正、白商会頭がご就任

国民の各界各層で奉祝運動を!

設立総会に寄せられた各界の祝辞 抄録

来賓祝辞

政府も記念式典の挙行を 町村信孝 内閣官房長官

天皇陛下が常に世界の平和と国民の幸せを願い、身を粉にして国のため、国民と共に歩んでこられたことに思いを致しますとき深い感動を覚えずにはいられません。

来る平成二十一年は御即位二十年であると共に、両陛下の御成婚五十年という誠に慶賀すべき年。この年を迎えるにあたり、設立総会が、各方面で活躍の錚々たる皆様方を設立発起人として盛大に開催されましては、誠に同慶にたえません。

政府としても記念式典の挙行などを検討して参りたいと思っておりますが、天皇と国民との結びつきという視点からは、我が国社会を構成する多くの人が立場を超えて奉祝運動を展開されるのが非常に重要なことと考えます。御即位二十年の奉祝運動が、華々しくも力強く全国各地で繰り広げられ、天皇陛下と国民の結びつきを皆が再確認する素晴らしい機会となりませう。皆様方の奮闘を心よりお願い申し上げます。皇室の益々の弥栄をお祈り申し上げます。

来賓祝辞

皇室は常に伝統文化の中心 伊吹文明 自由民主党幹事長

現在ある文化、伝統、規範に対して私たちは常に謙虚な姿勢をもって対応しなければなりません。謙虚な姿勢を持つべきもので、その現実が時代の流れに合わなくなつたときには本質的なものを失わずに形を変えて行く



政府を代表して祝辞を述べる町村官房長官
政府記念式典の挙行など検討中と方針表明

ことができるのです。真の改革を可能にするのは、真の保守主義者であると確信しております。

我が国においては伝統文化、そして規範の中心におられたのは、常に天皇家でありました。脈々と継がれている伝統を守り、我々の今の姿をもう一度反省し、次の世代にいい時代を受け継いでいく。これが、悠久の歴史の中で今に生きる我々の義務だと思っております。

来賓祝辞

陛下はまさに日本の尊厳 鳩山由紀夫 民主党幹事長

天皇陛下はまさに日本の尊厳そのものだと思っております。しかし、国賓の接遇、或いは外国訪問は、憲法の中の国事行為には記されておられません。私は得るならば憲法改正の議論の中でこのことについても国事行為として論じられるべきではないかと申し上げたいと思っております。

数年前に私自身の憲法私案の中で書かせていただいたように、「日本国は国民統合の象徴である天皇を元首とする民主主義国家である」と謳ってきたのではないかと思っております。自民党と民主党、お互いの損得を超えて、日本の未来のために果たすべき役割として、皆様方とともにこの国の繁栄に尽くして参りたいと思っております。

来賓祝辞

国民の心を一つにされた陛下 島村宜伸 奉祝連世話人

先帝陛下が戦争の責任は一切自分にある」と言いつつ、御身をもって国民を守られたあの姿勢があつたからこそ、今日の日本があるのです。そして先帝陛下の後をお継ぎになつた今陛下は、誠にすばらしいお姿です。

御即位以来、日本の全ての都道府県を幸なされました。また災害が発生すると即座に被災地にも赴かれ、被災者と同じ目の高さで温かい言葉をかけて励まされています。このことがどれほど国民を励まし心を一つにさせて人づくりにつながつたか。

天皇 皇后両陛下の御即位二十年を行事をすばらしいものに、あわせて五十年の金婚の御儀を心を込めてお祝い申し上げます。陛下の御代をお讃え申し上げたいと思っております。

各界からの祝辞

陛下の温かい御心に感動 山口信夫 日本商工会議所名誉会頭

日本商工会議所の会頭時代、経済三団体長との懇談会や宮中晩餐会の席上で親しくお言葉をかけて頂き、私はその時の両陛下の温かい思いやりとお気遣いに満ちたお言葉の一つひとつの心から皆が感動したことを昨日のこのように覚えております。

そしてその思いを機会ある毎に周囲の皆さんにお話ししております。私達は経済界に身を置く一員として、我が国の経済発展に引き続き微力を尽くし、国民生活の向上に貢献して参りたいと思っております。

各界からの祝辞

日本神話の心を伝えたい 浅野温子 女優

この度は、奉祝委員就任のご指名をいただき大変栄誉なことと感激しております。平成十五年より『古事記』を分かりやすくした語り舞台『日本神話への誘い』を各地の神社に奉納しています。

い家族を想い、自然や食に感謝するといふ古来の日本人のDNAにある想いが、たくさん詰まっています。

役者の私にできることは、語り継ぐといふことだけです。日本神話を通じて、皆様に何かを感じていただくきっかけとなればと思っております。天の岩屋戸が開く、これからの日本において陛下のお気持ちがお人々を明るく、希望に満ちた輝かしい世の中となりませうと心より祈念致します。

各界からの祝辞

陛下に良い報告を 川淵三郎 日本サッカー協会会長

サッカー協会の旗のシンボルは、神武天皇の道案内をしたといふ八咫鳥で皇室に縁深いものがあります。

天皇陛下には、スポーツが青少年に与える影響につき深いご関心を示され、常に励ましの言葉を賜っております。二〇〇六年のワールドカップ、ドイツ大会直前には、監督や選手らを皇居に招かれ、お話をさせていただきました。機会があり、陛下のお言葉に全員が深い感銘を受けました。

来る二〇一〇年W杯の予選リーグを戦っていますが、陛下に良い報告をお届けできるよう頑張っております。さらに、御即位二十年を奉祝することは、陛下に感謝を捧げることであります。各種の記念事業が成功することを心より願っております。

各界からの祝辞

陛下にいただいた復興の力 長島忠美 元山古志村村長

平成十六年十月二十三日、山古志村を震度七の地震が襲った時、全村非難を決定しました。その時、考えられないことが起りました。両陛下がお見舞いに来られ、避難民の一人ひとりにお言葉をかけになり、村民の全員が涙を浮かべました。

地震により谷間の棚田荒れに心を痛みつくる山古志の里」といふ御製で私達は、歩き出す元気をいただきました。陛下が心配して下さっている、それは国民にとって最高の幸せです。今度は、我々が元気になつて陛下の御即位二十年をお祝い申し上げます。全国津々浦々から参加してお慶び申し上げます。奉祝式典となりますよう、私も微力を尽くさせていただきます。

会長祝辞

国民の各界各層で奉祝事業を 岡村正 奉祝委員会会長 日本商工会議所会頭

天皇陛下におかせられました。本年、御即位二十年をお迎えおそばせられます。先ず心よりお祝い申し上げます。また、来る平成二十一年十一月秋には、世界各国の元首のご参列を得て挙行された即位の礼、及び大嘗祭より数えて満二十年、またそれに先立つ四月春には、御大婚満五十年という誠に慶賀すべき年を迎えになります。

この度は、皆様方より奉祝委員会の会長に「推挙をいただき、図らずも天皇陛下御即位二十年の奉祝行事に参画できまことは、誠に光栄の至りに存じます。天皇、皇后両陛下の御心にかないますよう、本日から向う二ヶ月、微力ながらその重責を全うする所存でございます。

大いなる世界の動き始まりぬ父君のあと継ぎし時しも
これは、陛下が御即位当時を憶はれた御製ですが、御即位直後にベルリンの壁が崩壊し、東西冷戦の終結を見ました。その後、世界各地では各種の紛争やテロなどが相次ぎ、また国内にあつては、政治、経済、社会の混沌とかつてない諸情勢に加え、地震をはじめ大規模な自然災害が数多く発生いたしました。

この間、天皇陛下におかれましては、日本国及び日本国民統合の象徴として、ひたすら国家、国民の安寧と世界の平和をお祈りになり、御心を砕いて参りました。天皇陛下は、平成十六年の歌会始に「幸(さち)さ」といふ御題で、次の御製をお詠みになつておられます。

人々の幸願いし国の内めぐりきたりて十五年経つ
陛下は、御即位直後よりなるべく早い時期に全ての都道府県を訪れたいと「希望になり、毎年開催される植樹祭や国民体育大会のご臨席に際し、隣接する県を「視察先」に加えられ、民生の向上と福祉の充実、産業の発展ぶりなどを親しくご覧になつておられました。そして、平成十五年秋の鹿児島県をもち四十七都道府県全ての行程を達成され、その行程は、地球三周分に当たる十一万キロメートルに達し、全国の奉迎者は、実に六百六十万人に及んだと伺っております。

特に陛下は、阪神淡路や新潟県中越地区など大規模災害の被災地に対しては、いち早くお見舞いになつて被災民を励まされ、その後の復興を見守つておられました。また、先の大戦で尊い命を捧げた戦死者や遺族に対しても深い御心を注がれ、戦災の規模が大きかった沖縄をはじめ、長崎、広島、東京そして硫黄島やサイパン島にまで慰霊の旅をお続け下さいました。更には、「公務の忙しい合間を縫って海外にもお出ましになり、世界各国との友好親善を進めておられました。

陛下には、平成十五年のご手術の後も「これまでと変わることなくこのよつなご公務を続けておられます。私共は、この陛下の「聖徳に心からなる感謝の誠を捧げると共に、このよつな皇室を戴く日本に生まれた幸福をかみしめ、奉祝の気運を大きく盛り上げて参りたいと存じます。

本日の奉祝委員会の設立を契機として、全国各地においても今後、奉祝運動が開始されます。私共は、政府や地方公共団体、さらには広範な各種団体など、国民各界各層において、それぞれ意義のあるたくさんの記念事業が実施されることを願つてやみません。